

## 平成 27 年度第 2 回運営幹事会 議事録

作井技術委員会 事務局

平成 27 年 7 月 14 日(火)16:00-17:35

開催場所:石油資源開発(株)1905 会議室

出席者:武村、戸田、日野、池田、浦野、田村、尾上、福嶋、石黒(代理)、長縄、佐藤、片岡(12 名)

欠席者:古谷、前田

### 議題 1:報告事項

- 1) 大水深掘削技術分科会
  - 8 月 20 日以降に第 20 回会合を開催する予定。
- 2) 協会ホームページ委員会
  - JX 日鉱、伊藤忠石油開発、INPEX から各 1 名、計 3 名の委員交代が行われた。
- 3) 協会理事会
  - 会員の増減、秋季講演の日程変更、協会誌印刷費削減検討状況、学生優秀発表賞の連続受賞の是非について論点を整理し次回理事会で決議予定。

### 議題 2:平成 27 年度 春季講演会の総括

- 1) 参加人数、年代別人数分布
  - 年代による座席エリア分けをしたが、年代毎に参加者数に大きな偏りがでた。10-19 年目の会員は海外の駐在率が高いためか、参加者が少なかった。
- 2) アンケート(感想)結果の紹介、次回に向けた改良点
  - ◇ 新しいシンポジウム実施方法については、概ね好評だった。但し、少人数グループ組成に関してはアンケートでは世代別、フリーともに賛否両方の意見があった。⇒少人数意見交換を含めた新しいシンポジウム方式は来年度も継続するが、少人数グループの組成の仕方については引き続き検討する。経験の少ない者にレベルを合わせると有意義な議論ができなくなってしまうおそれがある点も注意すべきとの意見も出た。次回に向けた改良案(シンポジウム):少人数グループ組成案:
    - A. 人数バランスを考慮した世代別→(席替え)→フリー
    - B. 若手(入社 4 年目くらいまで)だけの小グループ意見交換を希望する者、学生・異業種のエリアを設置、他は座席指定はおこなわずフリーとする。
  - ◇ 公演数を絞り、討論時間を長くとり、コメントや質問は意図が正確に伝わるよう書いた人本人から発言してもらおう。
    - ⇒公演数を絞ることでシンポジウム原稿数は少なくなるが、已む無し。
  - ◇ 参加者用の名札を用意。
  - ◇ 経験年数の浅いエンジニア及び学生・異業種用に説明冊子を作成。

- 個人講演における休憩時間中の質疑への対応は、次回も講演者をお願いします。
- 次回に向けた改良案(個人講演)
  - ◇ 休憩時間中の質疑応答に対応する講演者用の席を設ける。特別に席を設けない場合は、質問者が現れるまで世話人が各講演者に付いて間をもたせ、とりなす。
- 3) 個人講演の評価と投稿推薦講演の選出
  - (1), (5), (7), (13) の 4 件に投稿のお勧めを送付することに決定。
- 4) 質疑応答、感想の取り扱い
  - シンポジウム講演の来場者から出た質問およびコメントを一覧表に取りまとめ、作井技術委員会の HP にアップロードする。
  - 上記について、石油技術協会のメールマガジン、およびシンポジウム討論録の最後にその旨を記載することで、会員に周知する。
- 5) シンポジウム原稿の執筆、査読について
  - 録音から起こした討論録のドラフト版を講演者＝執筆者に送付する。執筆者は、原稿と討論録の整合性がとれるように討論録を、修正する。
  - 執筆者は 8 月 20 日を締め切りとして、原稿および修正した討論録を事務局に送付する。
  - 事務局は、執筆者から受け取った原稿および討論録を編集委員会に送付し受理手続きを行うとともに、査読者に送付する。査読者はファシリテーターを第一候補とする。その際、討論録のドラフト版も一緒に送付し、査読者がドラフト版と修正版の討論録を対比できるようにする。査読を 9 月末目標に終える。

### 議題 3:平成 27 年度作井技術委員会の活動計画の審議

- 1) 活動方針(案)、年間スケジュール(案)、活動費予算(案)
  - 特になし。
- 2) 第一回作井技術委員会(9 月予定)での特別講演
  - 委員会は 9 月の第 2 または 3 週目に開催予定(3 週目 9/14~18 が第一候補)。
  - 特別講演の候補:
    - ◇ 出光興産:カナダのウラン鉱山の開発について(あるいは石炭鉱山について)
    - ◇ 異業種:人材教育や最新技術について

### 議題 4:その他

- 平成 28 年度春季講演会シンポジウム後レセプション実施について
  - ◇ ビューホテル以外の候補 2 箇所のコスト見積もり紹介(最低で駅前:4000 円/人、山王:3000 円/人)⇒ビューホテルにも料金を確認する。
- 分科会活動の活性化について
  - ◇ World-Café 方式のワークショップは会社や世代を跨いだ交流が可能で委員会活動の活性化や世代交代にも有効と思われるので、積極的に適用していく。

- ◇ 分科会に将来発展することを期待し、若手技術者の交流を目的としたワークショップ開催（テーマは参加者で自由に決定）を試みる。入社 10 年程度までの若手に声掛けを行い、必要があればシニアが加わり講師役を務める等、サポートする。また、懇親会費用の一部を作井技術委員会活動費から補助する。